

川のほとりにおだやかに暮らしてきた人々

たくさんのブナやミズナラが繁る森は、雨や雪をしっかりと受けとめる、いわば天然のタンク。落ち葉のなかに静かにしみ入った水は、小さな沢となつて流れをつくり、新たな沢と出会い、やがて川となり、只見川へと流れ込んでいくのです。そうした川の畔にも、金山町の人々の暮らしが息づいてきました。小さな沢一つひとつも、悠々と流れる只見川

も、金山町の人々の暮らしとともにあったのです。

人々が大切にしている滝がありま
す。それは、御神楽岳の山ふところ
にある幻の滝群です。雪どけや梅雨
などの増水の時期には、二十三メー
トルの瀑布や、全長三百メートルも
の長大な滝が出現します。また、滝
沢川の急流にあるおう穴群は、長い
歳月をかけて刻まれた岩の回廊です。
階段のような小さな滝や、奇岩・怪
岩が溪谷美をつくりだす景勝地となっ
ています。

たくさんの魚を育む
美しい川の流れ

川面をじっと見つめてみてくださ
い。沢の石の間をそつとのぞいてみ
てください。金山町の川や沢には、

森から生まれ出た小さな沢は、やがて大きな川となる。
悠々と流れる只見川は、
金山に暮らす人々とともに悠久の時を刻んできた。

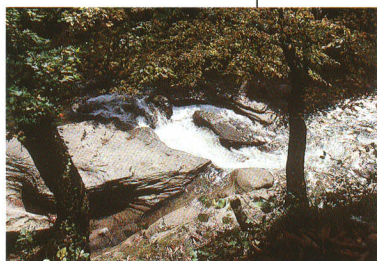
妖精が棲むまち、金山③

川に暮らす

どこでもたくさんの魚や水棲動物が
動き回っているのに気づくでしょう。
イワナやヤマメ、アユやハヤものび
のび泳いでいます。春四月には溪流
釣りが、七月にはアユ釣りが解禁。

川には静かに釣り糸を垂れ、水と対
話するかのような釣り人たちの姿が
目立つようになります。

もちろん、釣りだけでなく、川遊び
に興じる子どもたちをよく見かける
ようになるのもこの頃。流れを眺め
ながら遠くに聞
く子どもたちの
声は、まるで妖
精たちのおしゃ
べりのように、
まちのあちらこ
ちらに響いてい
ます。



【川の歳時記】

- ① 滝沢川おう穴群(左上)
- ② 毎年6月に行われる滝沢川溪流まつり(左下)
- ③ 野尻川へのカジカの稚魚放流(右下)

